



かわの情報誌

特集

堺市

一等三角点のある日本一低い山

大阪府

安威川ダム建設事業における

周辺整備の取り組み

三重県

～紀伊半島大水害から5年が経過して～

トピックス

第29回全国なぎさシンポジウム

in和歌山の開催

「社会福祉施設等における非常災害対策

事業者説明会」を開催



2016 冬号

NO. 96

ページ

特集

- 3 一等三角点のある日本一低い山:蘇鉄(そてつ)山 … (B)
堺市建設局土木部河川水路課 仲村 彩
- 5 安威川ダム建設事業における周辺整備の取り組み … (C)
～安威川フェスティバル2016～
大阪府都市整備部河川室河川整備課
- 7 ～紀伊半島大水害から5年が経過して～ … (D)
三重県熊野建設事務所 事業推進室長 関山 治利

トピックス

- 9 第29回全国なぎさシンポジウムin和歌山の開催 … (E)
和歌山県県土整備部港湾空港局港湾漁港整備課 津波堤防室
- 10 「社会福祉施設等における非常災害対策事業者説明会」を開催 … (F)
～河川情報等に対する理解を深めていただくために～
近畿地方整備局河川部地域河川課長 井川 貴史

インフォメーション

- 11 第10回 淡海の川づくりフォーラム参加団体募集！
鴨川探検！再発見！第44弾
京都・東山花灯路ー2017
第31回高瀬川桜まつり
とんぼりリバーウォークでイルミネーションイベント「光と水のワンダーランド」を
開催！！
アクリルタワシ作製講座
大和川一斉清掃
古座川桜まつり

イベント情報

- 16 狭山池歴史ウォーク
貴志川イルミネーション etc



※表紙写真（加古川）

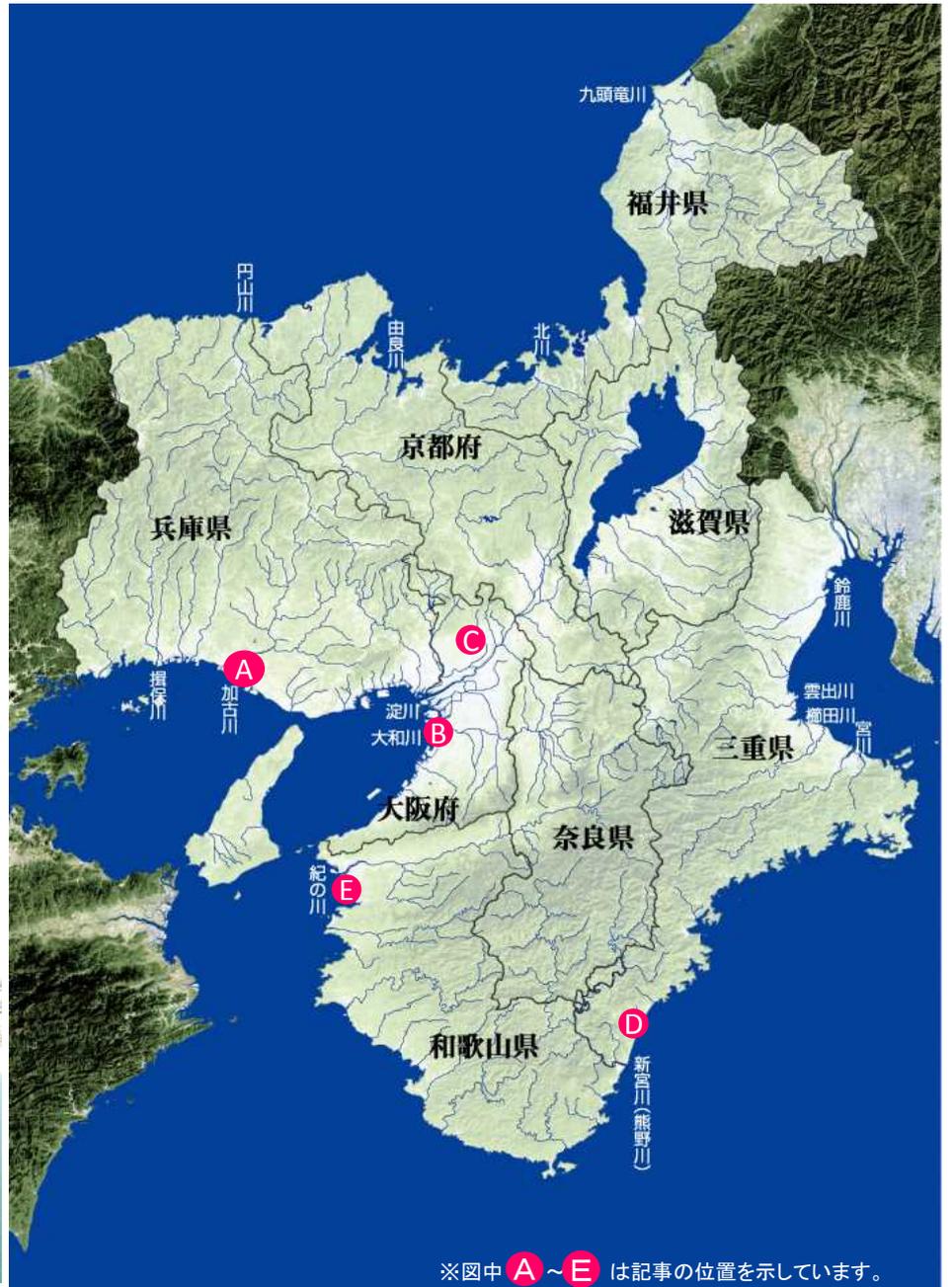
加古川は、兵庫県朝来市及び丹波市から瀬戸内海播磨灘へと流れる一級河川です。河口部では流下能力を向上させるための掘削を行っています。掘削した川砂は、阪神間最大の海水浴場として賑わっている須磨海岸（神戸市）の遠浅海岸整備の砂浜材として投入し、有効利用を行っています。

① 加古川の掘削

かこがわ



須磨海岸への投入



※図中 ①～⑤ は記事の位置を示しています。



大原町 住吉川の崩壊対策事業について
 京都府 千年の都を流れる鴨川を、安心・安全で美しく残されるものとして次の世代に引き継ぐために
 ～京都府鴨川条例～
 2015 夏号 NO.90

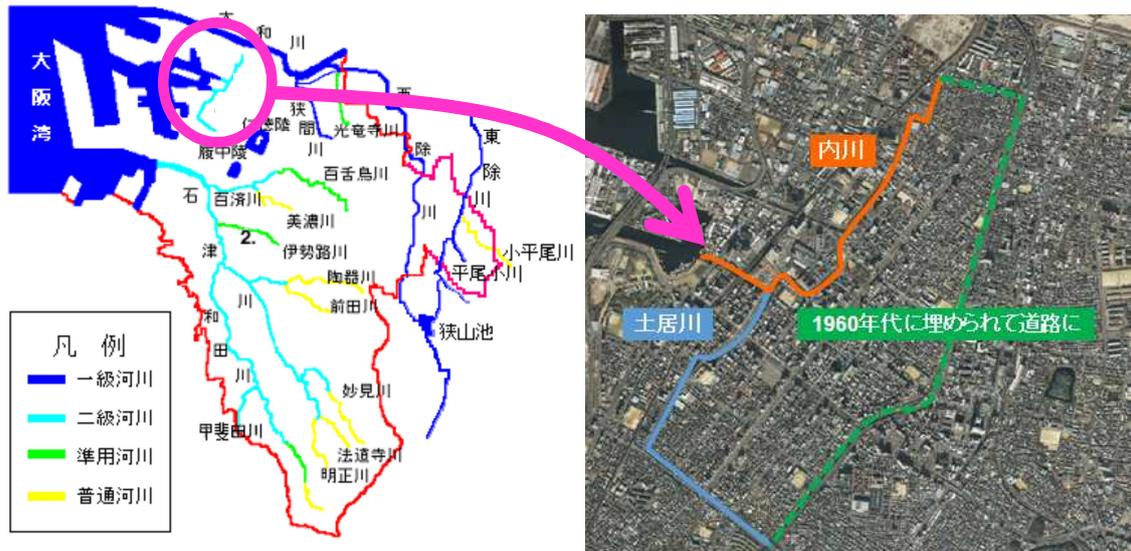
“さらさ”は、近畿管内の各府県（三重県含む）と政令市、整備局で、昭和六十二年一月から発行しているかわの情報誌です。平成二十年から休刊していましたが、二十五年より復刊し、現在では、府県・政令市・整備局の持ち回りで、職員の手作りにより作成し、今冬号でようやく一巡しました。これからも、行政間で参考となれるような情報発信を目指してまいります。

一等三角点のある日本一低い山：蘇鉄（そてつ）山

堺市建設局土木部河川水路課 仲村 彩

はじめに

堺市内にある二級河川内川・土居川は、堺市北西部に位置する宅地化された市街地を流れる典型的な都市河川です。15、16世紀にかけて、その当時堺は日本一の海外貿易港として栄え、富を得た商人たちが町を守るために、北と東と南の三方面に濠をつくったのが土居川の始まりです。その後、時代の変遷を経て形を変えていきますが、今から180年ほど前の改修時にまつわる話を今回は紹介させていただこうと思います。



天保の飢饉から堺の人々を救ったウォーターフロント開発

現在、堺市内には、一等三角点のある日本一低い山である蘇鉄（そてつ）山があります。その標高はわずか6.97m。名前のとおり、山頂付近に蘇鉄が植えられており、明治12年（1879年）の大浜公園開園時に、大阪湾の展望のための築山として整備された山です。ちなみに日本一低い山は天保山（標高4.5m）です。

しかし、蘇鉄山より以前に一等三角点のある日本一低い山が堺市にはありました。天保7年（1836年）に築造された、蘇鉄山の約300m東南に位置していた御蔭（おかげ）山です。



天保7年（1836年）から、連年の凶作と商人・酒造人による買い占めによって、米価は大幅に高騰し、冬を迎え、翌年正月までに、天下の台所である大坂でさえ餓死・凍死者4～5千人が出る事態となりました。飢饉に苦しむ市民のため、天保8年（1837年）2月19日に、大坂で大塩平八郎の乱が起こりました。しかし、堺は大坂の隣に位置していたにもかかわらず、この大塩の乱に呼応したという記録はありません。

というのも、堺では、この年に、中之町から南半町浜に通じる堀川を開削し、これによって南の土居川とつながり、今日の内川が南北にわたって全通し、堺の環濠ができました。この時期の堺では 10 数年にわたって港湾と周辺の総合開発、今日でいうウォーターフロント開発が、官民一体となって積極的に行われており、この開発事業によって大飢饉にあえぐ堺の人々は賃金を得ることができ、生活をしのぐことができました。

これら開発で開削した際の土砂が積み上げられてできたのが御蔭山です。この御蔭山の頂に近代地図作成のための基準点となる一等三角点が明治 18 年（1885 年）に設定されました。その後、昭和 14 年（1939 年）に南海鉄道敷設事業により御蔭山が切り崩されることとなり、蘇鉄山の標高 6.84m のところに移設されました。



あとがき

蘇鉄山は、一等三角点の設置されている山としては日本一低い標高でしたが、山名としては未登録の状態でした。平成 12 年（2000 年）に国土地理院により山名が認定され、一等三角点の設置されている山としては日本一低い山となりました。山岳会が結成されていて、登頂されますと南海線「堺駅」南口すぐの神明神社で登山認定書がもらえます。山登りが苦手だという方もぜひ一度、この低い山の登山を楽しんで、登頂の達成感を味わってみてはいかがでしょうか。



(参考図書：堺『意外史』探訪 中井正弘著 (ホウユウ出版部))

安威川ダム建設事業における周辺整備の取り組み ～安威川フェスティバル 2016～

大阪府都市整備部河川室河川整備課

1. はじめに

安威川ダムは、淀川水系安威川の上流部（大阪府茨木市域）で建設を進めている、中央コア型ロックフィル型式の治水ダムで、昭和42年7月の北摂豪雨災害を契機に、100年に一度の大雨（時間雨量80ミリ程度）にも対応できるように計画されました。その後、ダムサイトに関する調査、地元地区との交渉や付替道路事業などの実施を経て、平成26年には、ダム堤体の建設工事に着手しています。

安威川ダムの建設地周辺には、数多くの動植物が確認され、里山や棚田があり、多様な自然環境と景観が現存しているため、ダム建設にあたっては自然環境の保全や、ダム完成後の魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

本稿では、こういった地域づくりに関する活動の一環である「安威川フェスティバル」を紹介します。



図-1 位置図

2. 安威川フェスティバルの概要

安威川ダムの完成後、その周辺地域を多くの人々に活用してもらうため、より府民ニーズにマッチした、府民による自立型の地域づくりを目指して、教育関係者やNPO団体などで構成される「安威川ダムファンづくり会」を平成26年3月に発足し、将来のダム周辺の環境保全や活用に向けた活動を進めています。

この安威川ダムファンづくり会が、中心となってダム湖周辺の水源地域の振興、地域間の交流の活性化に向けたダム周辺の地域づくりを進めていく取り組みの一環として開催しているイベントが「安威川フェスティバル」です。

平成28年10月16日には、3回目となる「安威川フェスティバル2016」が開催され、約1,300名の府民の方々に来場いただきました。今回のテーマは「～体験して、学んで、楽しむフェスティバル～いっしょに創ろう！みんなの安威川」とし、様々な催しを展開、来場者に賑わいを提供しました。



図-2 安威川フェスティバル ポスター

その中でも工事受注者（大林組・前田建設工業・奥村組・日本国土開発特定建設工事共同企業体）が企画したプログラム「ダム工事現場見学ツアー」は、普段はなかなか見ることができないダムの建設現場に立ち入り、実際に現場で使用されている大型重機を見て触れることができるという、臨場感にあふれるプログラムとなっており、昨年に続いて大盛況でした。



写真-1 ダム工事現場見学ツアー

また、ダムの堤体材料として使用される岩材料（リップラップ）にメッセージを残し、これを実際に安威川ダムの堤体を使用するプログラム「ダムに残そう！ みんなのことば」では、子どもたちを中心にフェスティバルに来場された方々が思い思いの言葉を残されていました。



写真-2 「ダムに残そう！ みんなのことば」



写真-3 会場の様子

3. おわりに

平成 32 年のダム本体完成を目指してダムの建設工事が着実に進んでおり、事業者や施工者も力を合わせて、地域の賑わいの創出に尽力しています。将来的には、地域住民やダム周辺でのイベントなどの担い手により、ダム湖周辺のフィールドを利用して、自立的に府民が主導して地域活性を確立していけるような環境を整えたいと考えています。

今後も、安威川フェスティバルは続けて開催していきますので、ぜひお越しいただければと思います。



写真-4 集合写真

～紀伊半島大水害から5年が経過して～

三重県熊野建設事務所 事業推進室長 関山 治利

1. はじめに

平成23年9月に紀伊半島を中心に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害から5年が経過し、災害復旧は概ね完了することができました。しかし、近年においては、ゲリラ豪雨や台風などの異常気象は減少することなく増々猛威を振るい、全国各所で水害や土砂災害などによる被害が頻発しています。このような中、紀伊半島大水害の経験を踏まえ、今後おこりうる異常気象に対しどのように対応していくべきなのかが課題となっています。



2. 平成23年紀伊半島大水害について

平成23年8月25日に発生した台風12号は、日本の南海上をゆっくりと発達しながら進み、9月3日に高知県に上陸、その後も、ゆっくりと北上を続け、4日未明に日本海に進み温帯低気圧となりました。

台風の接近に伴い、三重県内では8月30日夜から雨が降り始め、9月1日から5日朝にかけて県南部を中心に長時間にわたって激しい雨が降りました。特に、東紀州地域では、熊野市中心部を流れる井戸川流域の大峪（おおさこ）観測所で時間最大141ミリ、24時間雨量1,141ミリ、降り始めからの総雨量は1,500ミリに達する猛烈な雨となるなど記録的な豪雨となり、本県のみならず奈良県、和歌山県にも大きな被害をもたらしました。

当地域では、地域の命の道である国道42号が通行止めとなり、また、各所で土石流や浸水・越水が発生し、集落が孤立する事態が発生しました。

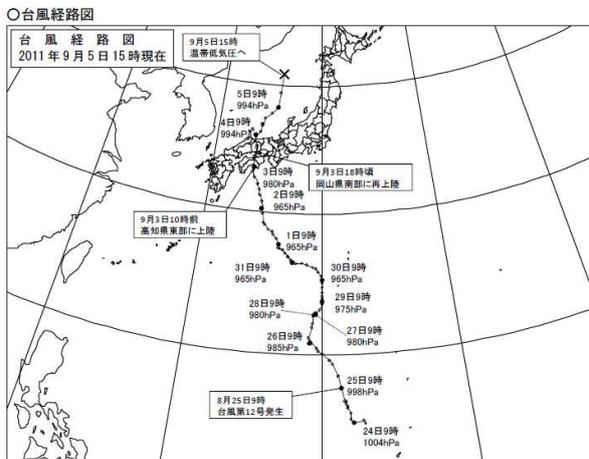


図-1 台風12号経路図（気象庁資料より）



写真-1 県熊野庁舎周辺の浸水状況

3. 災害復旧に向けて

各所で集落の孤立が発生したことから、その解消を図ることを第一に考え、「地震・津波・風水害等の緊急時における運用協定」（以下、災害協定）に基づき県建設業協会の協力を得ながら道路啓開作業を実施しました。当初は被害情報や復旧に対する指示が錯綜したことから混乱が生じましたが、情報管理や指示の一本化を図ることによりスムーズな対応が可能となり、発災から8日目には全ての孤立集落の解消を図ることができました。

また、復旧に向けての現地調査では、応援の職員も加え調査を行いました。職員だけでは調査範囲に限界があることから、被害の著しい箇所をテックフォース（国土交通省緊急災害対策派遣隊）に依頼するとともに、災害協定に基づき県測量設計業協会にも協力を得て調査を行いました。

この結果、251か所の単独災害復旧事業と8箇所の改良復旧事業、6溪流の災害関連緊急砂防事業・砂防激

甚災害対策特別緊急事業が採択され、発災 5 か月後の平成 24 年 1 月から災害復旧室を立ち上げ本格的な復旧作業に着手しました。

復旧作業については、平成 26 年度末までに全ての単独災害と 6 箇所改良復旧事業、3 箇所災害関連緊急砂防事業・砂防激甚災害対策特別緊急事業が完了し、残る箇所についても一定の効果を上げる整備を完了することができました。



写真-2 井戸川被災状況



写真-3 井戸川復旧状況

このように、無事、復旧事業の概成を果たすことができましたが、発災直後は、指示命令を出すべき県庁舎自身が、前を流れる一級河川井戸川の越水により浸水したことから、現地調査に向かうための公用車が水没し、その後の調査も土石や流木に行く手を阻まれ、調査は困難を極めました。また、電気・水道・電話などのライフラインもすべて停止。食料調達もままならず、断水により飲み水確保も困難、トイレも流せず、お風呂にも入れず洗濯もできない状態が長く続き、生活面でも大変苦労しました。

そのような中、対応にあたる職員は、地域的な理由から単身による寮生活者が多いこともあり、職員全員が一刻も早く災害復旧するという強い意志により、一致団結して対応することができました。

4. 紀伊半島大水害の教訓

これまでに経験したことのない大災害であったこと、住民からの様々な問合せや要望が寄せられる中、職員は目の前の対応に追われる状況でした。このため、被災当初の道路啓開作業では、情報共有できていなかったため、職員からの指示が錯綜し現場が混乱したため、的確な対応ができませんでした。

これらの経験から、大水害に対応するためには、情報の収集・集約・整理・共有と、それを活用した指示命令系統を一本化することが重要であり、あらかじめ、組織として、職員として、いつ・誰が・何をすべきかを、誰もがわかるよう明確にしておくことが必要であると痛感しました。

当事務所管内にある紀宝町では、この大水害を教訓に、いち早くタイムラインを策定し、平成 26 年 2 月から運用しています。これにより、台風来襲など災害に備え、いつ、何をすべきかが明確となり、関係機関の情報共有・連携が進むとともに、早い段階での住民への情報提供が可能となり、何より余裕を持った対応が可能になったとのこと。

三重県では、災害の事前対応について「三重県地域防災計画」に定めているところですが、台風などの予測可能な災害に対し、県職員が事前に取りべき行動を時系列で定めた「県版タイムライン（事前防災行動計画）」（仮称）を来年度末までに策定することとしました。これにより、県各部署の行動を関連付けて一覧できるほか、職員の配置や避難に遅れはないか、対応の漏れがないかを時系列で確認できることとなります。

5. おわりに

紀伊半島大水害から 5 年が経過した現在でも、住民の方々の心には、深く水害の記憶が刻み込まれており癒えることはありません。また、今年も様々な地域で被害をもたらしましたが、今後、ゲリラ豪雨やスーパー台風をはじめ、これまでの常識では測ることのできない異常気象が頻発することが予想されます。

今後も、土石流対策、洪水対策などの防災・減災に資するハード整備を進めるとともに、大水害を教訓に、発災前からの準備を怠ることなく、迅速な対応ができる体制の強化に取り組んでまいります。

第29回全国なぎさシンポジウム in 和歌山の開催

和歌山県 県土整備部 港湾空港局

港湾漁港整備課 津波堤防整備室

平成28年10月18日（火）に、和歌山市民会館小ホールにおいて「第29回全国なぎさシンポジウム in 和歌山」を開催しました。

本シンポジウムは、人と海のより良い関係を築くため、人と海の接点である「なぎさ」をテーマに意見交換し、その役割と大切さを再認識することを目的とし、昭和63年から毎年持ち回りで開催されています。

第29回目を迎える今回は、テーマを『～「なぎさ」を正しく知って～ 「なぎさ」をもっと楽しく！！』とし、利用、活用、環境等の様々な切り口で「なぎさ」についての意見交換を行いました。

当日は、全国各地から海岸行政関係者のほか県内の観光、環境、水産行政の関係者や「なぎさ」に関わる企業関係者などにお越しいただき、約460名の参加を賜りました。



開催ポスター

シンポジウムは、開催県を代表して、全国なぎさシンポジウム in 和歌山実行委員会会長である和歌山県知事の挨拶に始まり、前半は国土交通省水管理・国土保全局海岸室長の内藤正彦氏から「海岸における最近の取り組み」と題し、全国の海岸の状況や防災面での国のソフト・ハード対策の取り組み紹介などの基調講演、奈良女子大学名誉教授の和田恵次氏から「海と陸の狭間に生きる動物たちーその貴重性」と題し、なぎさに潜むカニや貝などの生態の特徴などの特別講演をいただきました。

後半は、大阪大学大学院教授の青木伸一氏をコーディネーターとするパネルディスカッションを行いました。パネリストには、串本町観光協会事務局長の宇井晋介氏、鳥取大学特命准教授の渋谷容子氏、東海大学教授の関いずみ氏、和歌浦漁業協同組合代表監事の横田邦雄氏と、様々な立場の方に努めていただき、それぞれの経験やどのようにすれば「なぎさ」をもっと楽しめるか、熱心な討論が行われました。

また、ロビーでは、海岸に関するパネル展も開催しました。

参加者からは、「なぎさの生態系の重要性を調べる機会を与えてくれた特別講演が良かった。」や「いろいろな立場からのお話が聞けて良かった。」などのご意見をいただき、十分な成果を収めることができました。



和田恵次氏による特別講演



パネルディスカッション



パネル展

「社会福祉施設等における非常災害対策 事業者説明会」を開催（神戸市） ～河川情報等に対する理解を深めていただくために～

近畿地方整備局 地域河川課 井川貴史

去る11月10日、神戸市内の要配慮者利用者施設の管理者の方々を対象に、非常災害対策についての事業者説明会を開催しました。

きっかけは今年8月に東北地方に上陸した台風10号に伴う豪雨により、岩手県の高齢者グループホームで9名の方々が亡くなるという痛ましい被害が発生したことによります。

この災害を受けて、国土交通省では厚生労働省及び各自治体と連携し、全国の要配慮者利用施設の管理者に対して、河川情報等に関する理解を深めていただくための説明会を来年度出水期までに開催していくこととなりました。

今回の説明会はこの趣旨に則り、近畿地方整備局、兵庫県、神戸市が連携・相互に協力し実施したものです。近畿管内では初めての実施であり、全国では宮城県日向市、静岡県島田市に続いて3例目となります。

当日は、第一部の神戸市の福祉部局からの説明に続き、第二部として神戸地方气象台、近畿地方整備局、神戸市危機管理室から各種の情報の意味と判断に関する説明を行いました。

神戸市内の約2100ある対象施設から多数出席していただき、熱心にメモを取りながら聞いていただけました。本説明会により、災害情報の意味、避難判断の方法等の理解を深め、災害に対する準備の必要性を改めて認識していただけたらと期待しています。

今後、近畿管内の各府県でも説明会を順次開催していく予定です。

【開催概要】

開催日時：平成28年11月10日（木）

（午前の部）10時から11時30分まで

対象：高齢者福祉施設等（対象：約1,000施設）

（午後の部）14時から15時30分まで

対象：障害者支援施設等（対象：約1,100施設）

開催場所：神戸文化ホール 大ホール

開催内容：下表のとおり



会場の様子

内容	午前の部				午後の部			
	対象：高齢者施設等				対象：障害者支援施設・児童福祉施設等			
	時間	説明者等	時間	説明者等	時間	説明者等	時間	説明者等
司会	神戸市介護指導課係長				神戸市障害者支援課係長			
第1部 厚生労働省通知の説明	あいさつ	10:00～	5分	神戸市保健福祉局長	14:00～	5分	神戸市こども家庭局長	
	介護保険施設等における利用者の安全確保及び非常災害時の体制整備の強化・徹底について	10:05～	15分	神戸市介護指導課係長	14:05～	15分	神戸市障害者支援課係長 神戸市こども家庭局長総務課係長	
第2部 日ごとの災害への備え	防災気象情報の活用について	10:20～	15分	神戸地方气象台 水害対策気象官	14:20～	15分	神戸地方气象台 水害対策気象官	
	あいさつ	10:35～	5分	近畿地方整備局 水災害予報センター長	14:35～	5分	近畿地方整備局 水災害予報センター長	
	災害への備え 情報と判断	10:40～	11:30	50分	神戸市危機管理室 危機対応担当課長	14:40～	15:30	50分



ハザードマップの配付やアンケートの収集も行いました。

災害への備え 情報と判断
洪水・土砂災害編

非常災害対策についての事業者説明会 H28.11.10
近畿地方整備局河川部 兵庫県国土整備部 神戸市

本日の内容

- 1 契機となった災害～台風10号 神戸の災害
- 2 気象情報～気象状況と影響を知る
(洪水災害や土砂災害の兆候を知る)
- 3 ハザードマップ
～危険性を知る・立地・地域を知る
- 4 避難情報～情報の意味と判断
- 5 判断とバイアス
- 6 今後の取り組みについて

神戸市危機管理室からの説明

※本説明会は、近畿地方整備局、兵庫県、神戸市の共催により開催したのですが、代表で近畿地方整備局地域河川課から報告させていただきました。

第10回 淡海の川づくりフォーラム参加団体募集！

■日時：2月4日（土）9：30～16：30

■場所：滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市京町4丁目1-1）

淡海の川づくりフォーラムでは『川や水辺と私たちのいい関係』を築いていくための参考となる“きらり”と光る活動を公開討論によって探し、その年いちばん輝く活動をみんなで表彰します。

参加していただく団体のみなさまには、団体“いちおし”の活動をA1サイズのパネル1枚にまとめて発表していただきます。

フォーラムに参加すれば、きっと素晴らしい出会いや活動のヒントがあるはずです。

ぜひご参加ください！



・最寄り駅：JR大津駅・京阪島ノ関駅から徒歩5分

・問い合わせ先：第10回 淡海の川づくりフォーラム

実行委員会事務局（滋賀県 流域治水政策室内）

TEL 077-528-4293

E-Mail ryuiki@pref.shiga.lg.jp

※申込み方法等、詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/eshinbun/20161124.html>

鴨川探検！再発見！第44弾

■日時：1月22日（日）午前10時～12時

■場所：鴨川（京都市北区、北山大橋周辺）

<概要>

京都府では、多くの人に親しまれている鴨川の魅力を改めて発見し、治水や防災、川への理解を深め、河川愛護や自然環境保全への関心と主体的な取組の輪を広げるため、“鴨川探検！再発見！”を開催しています。

第44弾となる今回は、「冬の鴨川 水辺の野鳥観察会」として、鴨川に飛来する野鳥を観察、大都市における自然を実感し、鴨川の魅力や自然の大切さを再認識します。



・交通機関、最寄り駅：京都市営地下鉄北山駅下車
徒歩10分

・問い合わせ先

京都府建設交通部河川課

TEL：075-414-5288

<http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/index.html>

京都・東山花灯路-2017

■日時：平成29年3月3日（金）～3月12日（日）（点灯時間）午後6時～午後9時30分

■場所：京都市内東山地域

白壁や木々にゆらめく陰影、石畳や門前町の店頭に彩りをそえるはんなりとした灯りなど、東山地域の地理的諸条件を生かし、露地行灯などの「灯り」といけばな作品による「花」の演出により、早春の季節感を魅力的に表現します。今年は、15回目の節目開催となり、記念となる事業も実施します。円山公園内では、「竹灯り・幽玄の川」と題して、吉水の小川のせせらぎを竹とろうそくを使って幻想的に演出します。



写真提供：京都・花灯路推進協議会 竹灯り・幽玄の川

・開催エリア：東山地域

（北は青蓮院から円山公園、八坂神社を通過して、南は清水寺までの東山散策路と周辺寺院、神社等）

・主催：京都・花灯路推進協議会

・問い合わせ先：京都・花灯路推進協議会事務局

TEL：075-212-8173（平日10：00～18：00） E-mail：hanatouro@kyo.or.jp

・ホームページ <http://www.hanatouro.jp/>

第31回 高瀬川桜まつり

■日時：平成29年4月1日（土）、2日（日）（予定）

■場所：高瀬川沿川及び元立誠小学校（京都市中京区木屋町蛸薬師下ル）

高瀬川桜まつりは、京都の春の風物詩です。高瀬川桜まつりは、地域の活性化などのため、毎年桜が見ごろを迎える4月上旬の週末に、高瀬川沿川および元立誠小学校にて行われます。高瀬川桜まつりでは、次のような様々なイベントが行われます。

・主なイベント：

高瀬川舟あそび、高瀬川沿川桜ライトアップ、卒業写真展、女みこし巡行、宝恵駕籠巡行、和太鼓演奏他

・主催：立誠高瀬川保勝会、高瀬川桜まつり実行委員会、立誠自治連合会、角倉了以翁顕彰碑保存会、立誠・文化のまち運営委員会、一般社団法人文まち

※イベント詳細につきましては、各種広報資料又は各主催者にお問合せください。



昨年の桜まつりの様子／高瀬川舟あそび

とんぼりリバーウォークでイルミネーションイベント 「光と水のワンダーランド」を開催！！

■日時：平成28年11月11日（金）～平成29年2月19日（日）

■場所：道頓堀川遊歩道「とんぼりリバーウォーク」の大黒橋～日本橋間

大阪を代表する観光スポットである道頓堀エリアを流れる道頓堀川の水辺遊歩道「とんぼりリバーウォーク」では、平成28年11月11日（金）から平成29年2月19日（日）まで、イルミネーションイベント「光と水のワンダーランド」を開催しています。

水都大阪を象徴する道頓堀川に、「イルカ」や「魚」、「花」などを模したイルミネーションを設置し、道頓堀らしい彩りと賑やかさを演出します。中でもメインとなる戎橋では、兩岸4方向から七色に橋を照らし出すアップライトを計8台設置し、より一層華やかに彩ります。

ぜひご来場いただき、イルミネーションの光と、街の鮮やかな光と一緒に川面に映り込む“道頓堀川ならではの”の幻想的な景色をお楽しみください。



・交通機関

最寄り駅：地下鉄御堂筋線・千日前線なんば駅から徒歩5分

・問い合わせ先

大阪市建設局下水道河川部河川課

TEL 06-6615-6833

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000381483.html>

アクリルタワシ作製講座

■日時・場所：下記①～⑧のとおり

奈良盆地を流れる大和川の汚れの主な原因は、台所やお風呂、洗濯など私たちが家庭で使った水(生活排水)です。大和川の水を少しでもきれいにするため、生活排水の汚れを減らす取組として、「アクリルタワシ」の作製講座を開催します。参加費無料。参加者全員にエコグッズをプレゼント。

- ① 1月12日(木) 三郷町文化センター
 - ② 1月19日(木) トーク安堵カルチャーセンター
 - ③ 1月26日(木) 田原本町公民館
 - ④ 1月31日(火) 上牧町中央公民館
 - ⑤ 2月 7日(火) 広陵町中央公民館
 - ⑥ 2月23日(木) 三宅町中央公民館
 - ⑦ 2月28日(火) 明日香村中央公民館
 - ⑧ 2月17日(金) イオンモール大和郡山
- ①～⑦は13:30～15:30、事前申込要、先着50名。
⑧は10:00～17:00、随時受付。



・問い合わせ先 奈良県県土マネジメント部河川課
TEL 0742-27-7504
<http://www.pref.nara.jp/15089.htm>

大和川一斉清掃

■日時：3月5日(日) 午前中 ※毎年3月第1日曜日に実施

■場所：大和川流域県内23市町村 約60か所(大阪府でも同日に実施)

大和川の美化・愛護意識を高め、きれいな川を取り戻すため、大和川流域住民、関係団体、企業、行政(国、奈良県、沿川市町村)が一体となって大和川の本川・支川の清掃活動を実施します。

お近くの会場に参加してみませんか。集合場所等詳しくは、ホームページをご覧ください。

※会場へは、公共交通機関をご利用のうえご参加ください。

※県で傷害保険に加入しますので、予め参加人数のご連絡をお願いします。



安堵町・岡崎川

・問い合わせ先 奈良県県土マネジメント部河川課
TEL 0742-27-7504
<http://www.pref.nara.jp/14678.htm>
(1月下旬頃に更新予定)

古座川桜祭り

- 日時：平成29年3月下旬～4月上旬（詳細は未定）
- 場所：七川ダム周辺（和歌山県東牟婁郡古座川町佐田）

「佐田の桜まつり」とも呼ばれ、約3000本のソメイヨシノが、七川ダム湖畔周囲約5kmに渡って咲き誇ります。また「日本さくら名所100選」にも選ばれた名所で、湖畔を散策しながらの花見は人気。日没後はぼんぼり提灯で夜桜も楽しめます。



- ・問い合わせ先 古座川町役場 産業建設課
TEL 0735-72-0180

河川クリーンキャンペーン

- 日時：通年
- 場所：大阪府内河川
- 問い合わせ先：大阪府都市整備部河川環境課
Tel：06-6941-0351（代表）
内線 2957

狭山池歴史ウォーク

- 日時：毎月第2日曜日通年
- 場所：狭山池(大阪府大阪狭山市池尻中二丁目)
- 問い合わせ先：狭山池博物館・郷土資料館
協働運営委員会
Tel：072-367-8891

鴨川探検！再発見！第44弾

- 日時：1月22日（日）午前10時～12時
- 場所：鴨川(京都市北区、北山大橋周辺)
- 問い合わせ先：京都府建設交通部河川課
Tel：075-414-5288

貴志川イルミネーション

- 日時：12月上旬～1月上旬
- 場所：平池緑地公園（貴志川）
（和歌山県紀の川市貴志川町神戸1073）
- 問い合わせ先：紀の川市都市計画課
Tel：0736-77-2511

第3回あらぎ島イルミテラス

- 日時：12月3日(土)～2月5日(日) 予定
- 場所：あらぎ島展望所（有田川）
（和歌山県有田川町三田）
- 問い合わせ先：有田川町商工観光課
Tel：0737-52-2111

■編集後記

「さらさ」2016年冬号の編集を努めさせていただきました。

投稿していただいた担当者の方々おかれましては、お忙しい中ご協力ありがとうございました。

2016夏号からリニューアルしているのをお気づきでしょうか？

今年4月のさらさ編集会議の場で、「もっと見やすくできないか」「フォントを揃えるべき」「特集記事は見開きを考えて偶数ページとすべき」「行政間の情報交換のツールとしてもっと工夫が必要」・・・など、活発な議論を行い、今の構成となりました。

この「さらさ」が、国府県市の取組みを共有・発信できるツールの一つとしてさらに有効活用していただけるものになればと思います。

編集担当：近畿地方整備局河川部地域河川課 曾山 誠